

「人非人」達からの仕打ち!!

本紙第52号に掲載の「エロ医師事件」最終章に登場する者達の行為は、表題「人非人」そのものである。辞書によれば「人非人」とは[人道に外れた行いをする人。ひとでなし]とある。本事件で筆者に泣き付いて相談し、その後も再々詳細に取調べへの不満や不信などを筆者に訴えておきながら、とどのつまりに事件の結末を弁護士から郵便で送り付けた。しかも、その内容は人間として、社会人としても非常識で、且つ無礼この上ない。物事を人に頼みながら、最後の報告は二人揃ってするのが常識である。この二人とは、本事件の相談者である三豊市議会議員の横山強氏と告訴人の森本美代子氏である。又、送り付けた久保和彦弁護士の書式(裏面をご覧ください)は、意図的に筆者名を最下段に記すという無礼極るものであった。裁判所などへ提出する書面も宛名先をこの様に最下段に書くのか?金で雇われる弁護士如きが、筆者を上から目線で見ていると大恥をかくということを知るのが良い。さて、本紙平成26年12月号(第38号)から連載し続けた「エロ医師事件」は第52号の今月に最終章を記した。大筋はお分かりのことと存じますが、少し詳しく結末に至る経緯を記します。横山強氏、森本美代子氏二人の非常識、且つ礼を失する行為は看過できず、本号外をもって読者や世間様にご判断頂きたいと存じます。事件の経緯は、本紙で毎号報じてまいりました通りですが、最終結果は筆者の予想通り「不起訴」で、その理由は「嫌疑不十分」です。この結果を本来なら事件の相談者の横山市議と、訴えた森本氏の二人が揃って筆者に伝えるのが、筋道ではないでしょうか。あろうことか、その通知を弁護士から郵便で行うという信じられない行動をとりました。その理由は、筆者に確約した資料が渡せないからということでした。昨年12月21日と12月26日の二日、横山市議が筆者に約束した電話以後、梨の礫で突然の今年1月15日配達証明郵便で送り付けられた書面でした。こんな仕打ちがあるのでしょうか。筆者の正義感や義侠心を煽り、泣いたり、訴えたり横山市議は森本氏に対して、異様なまでの素振りで相手医師のことを筆者に訴え、又、警察への不信や、警官を叱り飛ばしたなどと大言壮言して、筆者を教唆扇動して記事化させました。医師関係方面では「これは三角関係の喧嘩」だと噂されていると本人が筆者に話しながら、反論しないことを不信に思っていました。又、女性を殴ったり、美代子と呼び捨てるなど、この二人は怪しい関係ではと感じてもいました。いずれにせよ、人道に反する二人の行為は「人非人」そのもの。久保弁護士も筆者の名を最下段に記すという悪意ある挑戦的な書面を送り付けた不心得者と云えるでしょう。筋の通らない話で弁護士の肩書き振りかざして来ても筆者には通用しない。四国タイムズの時と同様に筆者の信条は「やられたらやり返す」です。

冠省 当職は森本美代子から依頼を受けて
いる代理人として、以下のとおり通知します
。

森本はある医師について強制わいせつ等により
刑事告訴をしていましたが、昨年末をもって不起訴
となっています。よって、刑事告訴事件としては終了
しております。

また、それとは別に、森本は当職らを代理人として、
ある会社を被告として損害賠償請求の民事訴訟を提
起しておりますが、貴社はその民事事件についての主張
書面や書証などの写を提供するように求めておられま
すが、お断りさせていただきます。

今後、前記各事件について、なんらかの情報提供を
することはできません。

この件については当職が受任しておりますので、直接、
間接をとわず、本人ならびに横山つよし議員には接
触しないようにお願いします。

草々

平成28年1月14日

高松市丸の内7番9号

弁護士 久保和彦



観音寺市出作町603-3

四国時報編集発行人 木下俊明様

この郵便物は平成28年1月14日第00386号
書留内容証明郵便物として差し出したことを証明します。

日本郵便株式会社

28.1.14

郵便認証司

28.1.14